

御前山ビオトープ通信

平成29年5月31日

第52号

発行：御前山ダム環境センター
 編集：NPO「美しい田園21」清野
 メール：denen21@hb.tp1.jp
 ホームページ：<http://w01.tp1.jp/~a071771011/>



【案内図】



目次

1. 御前山ダム湖周辺を歩く会
2. 第1回御前山ビオトープ育成活動
3. 御前山小学校の自然観察会

1. 御前山ダム湖周辺を歩く会

4月16日（日）に恒例の御前山ダム湖周辺を歩く会を開催しました。一般申込160名、関係者約30名の計190名で実施しました。

天気も良く、新聞に掲載した記事を見て参加したという方もいらっしゃいました。松山大橋ではエノキの記念植栽を行い、良い記念になったと夫婦で参加された方、来年も必ず参加しますと県北から参加された方、御前山ダムが見えるので存在は知っていたけどなかなかチャンスがなくて来ることができなかつたけどこんな機会があったので参加できてよかったと友達と参加された方などとても喜んでもらえました。

昼はおにぎり2個と豚汁を用意し、口々に美味しかった！ダシが良かった！と話してくれました。参加した子供たちは歩き戻ってくるなりお願いしてありました体験グランドゴルフに夢中になっていました。何人かの方に秋はやらないんですか？と聞かれ、また企画する必要があります。

2. 第1回御前山ビオトープ育成活動

平成29年5月30日（火）今年第1回目のビオトープ育成活動を行いました。今回の活動目的は通常の生態系に配慮した順応的管理（アダプティブマネジメント）に加えて、同日午後から行われる子供たちの自然観察会が安全に行われるように周辺整備することです。

作業内容を検討するために一足早く役員と現場を確認すると、地元の皆さんが、階段教室の丸太ベンチとログハウス前のデッキ板張替えを行って立派に改築されていました。また九輪草はちょうど満開の花を咲かせており、地元女性グループが早朝から草取り作業をしてきていました。ありがとうございます。



御前山ダム湖に映える山桜



山桜新緑ウォーク



地元から挨拶、作業打合せ

現地を回ると、取水口や水路は昨年の作業成果がでて全く問題がありませんでした。下池のガマとヨシが増えすぎてバランスが崩れていたのを整理すること。水芭蕉は順調に生育していますが、実生の苗は成長に年数がかかるので、株分けで上の湿地に拡大することにしました。水路から中池に移植したナガエミクリも元気でした。タコアシは下の湿地ではない圃場のほうが優勢でした。アギナシとともに周辺の草抜きを行います。林間のフタバアオイは旺盛に斜面を這い上がり枠の外まで増えていきました。クマガイソウも木漏れ日の似た生育環境を好むのか元気でした。イヌショウマも背が高く成長していました。暑い一日で作業を始めると大汗をかいてきます。途中休憩と水分補給を行い、昼近くには見違えるようにきれいになりました。これで、午後の自然観察会も安心です。



草刈り草抜き作業

昼食は地元で用意してくれて、働いた後の食事は格別でした。

昼食の合間にNPOから集落の片隅から採取した特定外来種オオキンケイギクを示してワンポイント講義を行いました。特に御前山は豊かな自然がある一方で、ダム湖出現により自然生態系が微妙に遷移する途上にあり、外来種の侵入には注意する必要があります。

3. 御前山小学校の自然観察会

同日の午後は御前山小学校の自然観察会が行われました。講師はヒメイトトンボの発見者として有名な茨城県環境アドバイザーの「廣瀬誠先生」です。

最初に約30名の児童が4人ずつのグループに分かれて大人が付き添い、虫などを採取します。私も女の子4人のグループを担当しましたが、生き物を発見するたびに大騒ぎです。蜘蛛や尺取虫には悲鳴をあげて逃げ出しましたが、カエルやトカゲを見つけると大声で追いかけてきました。昆虫は地上や空中だけではなくとアドバイスして池の中をタモで探ると、大きなゲンゴロウを捕獲して皆が鼻高々の大喜びでした。子供達以上に大人のほうが真剣になってきます。

一時間弱でかなりの種類を捕獲できたので、グループ毎に持ち帰り廣瀬先生から興味深い説明トークをもらいます。それぞれ東京ダルマガエル、カナヘビ、イモリなどなど実に多彩な生き物が捕獲できて驚きでした。かつて専門コンサルタントに委託して生態系調査をしたことがあります。この方式のほうがはるかに効率は良さそうです。子供の低い目線と好奇心は大人に見えないものも見えるようで、天才かもしれないと感動しました。ビオトープ造成直後に移植したメダカやハッチョウトンボ、オオムラサキなど、私は10年近く注目して観察していたにもかかわらず確認できませんでした。それが今回あらたに生息確認できて実にうれしい気持ちでした。また、大小の赤ガエルについて、オタマジャクシを含めると親子4世代が同時に確認できて、自然生態系が豊かに安定している証明と先生の解説がありました。子供達が自信たっぷりで捕獲した例のゲンゴロウをみて先生の表情が変わりました。先生は茨城県内各地を回っているが、在来種の典型的な特徴を立派に保持しており、県内ではほとんど見られなくなったものと驚いた様子です。ここは本当に素晴らしい



沢山の生き物に大喜び



廣瀬先生の説明トーク

集合：楽しかったね！



環境ですと専門家の高い評価をいただき、ビオトープ作りや管理にかかわってきた達成感を感じました。何よりも子供達と一緒に大騒ぎして走り回り、楽しい観察会でした。